

草津市中学校スクールランチの検討に関する報告書

草津市においては、現在、家庭弁当を持参できない場合に業者弁当を斡旋するスクールランチ（配食サービス）が実施されているが、そこで供される弁当は、成人向けに作られており、中学生の昼食に適しているとは言えない。また利用率が非常に低いことから、現行のスクールランチが家庭弁当持参制を補完しているとは言いにくい状況である。

このような現状を踏まえ、草津市中学校スクールランチ検討委員会は、平成25年6月から10月までの間、5回にわたり、現行のスクールランチを充実していくために、前年度に実施された調査結果の報告を踏まえ、諸課題について慎重に検討を重ねてきた。

学校給食やスクールランチは、保護者の負担軽減や昼食提供の合理性という面では利点があり、親子のコミュニケーションの深化や生活習慣向上への課題意識の育成という面では家庭弁当持参制の方に利点がある。

草津市においても都市化が進む中であって、各家庭の食に対する考え方も多様となり、現在、家庭弁当持参制が定着していることなどを前提に、その利点を大事にしながらも、新たな方向に向けてのスクールランチ事業の改革が期待されるものである。

ここにその検討結果をまとめ、下記のとおり報告し、スクールランチの充実に向けての提言とする。

記

1. 周知方法の改善

現在の周知方法は、年度初めに生徒を通じて各学年の保護者にスクールランチの案内を行う形式であり、生徒や保護者に十分に認知されているとはいえない。アンケート調査結果からは、スクールランチ制度が改善された場合、利用したいという潜在的な気持ちがある方が8～9割もあることから、周知方法の改善を工夫することが望まれる。

【具体的改善・充実策】

- ・小学校は完全給食のため、中学校での弁当づくりに負担やプレッシャーを感じる保護者がいることから、中学校入学説明会等において、積極的な周知を行う。
- ・広報や利用ガイド・リーフレット等の配布を通して、積極的な周知を行う。
- ・毎月のメニュー表を事前に配布し、食の選択肢を広げる環境を整える。
- ・保護者や児童、生徒を対象に試食会を行うことにより、スクールランチの周知に努める。

2. 利用しやすい制度

様々な事情により家庭弁当を持たせることが難しい家庭もある中で、弁当を用意できない時の支援として導入している現在のスクールランチは、気軽に利用できる状況にはない。

保護者や生徒がスクールランチを知り、食べたい、食べさせたいという意向が購入しやすい価格で注文できることを希望されており、保護者の負担軽減からもスクールランチをいつでも頼めるという安心感を与えられる制度となることを願う。

【具体的改善・充実策】

- ・生徒や保護者の「食」に関する課題への対応や、様々な事情に対応できるよう、家庭弁当持参を基本としながら、スクールランチとの選択ができるような制度とする。

- ・急な事情により家庭弁当を持参できない際は、スクールランチを当日注文できる仕組みが必要である。
- ・保護者が特に重視している価格は、弁当を持参している家庭との均衡や市の財政負担を考慮しながら、できるだけ安価な利用しやすい価格を設定する。
- ・生徒の食事量に応じて量が選べる仕組みとすることで、**残菜が出ないような弁当のあり方となり**、食育の観点からも有効であり、魅力的なスクールランチとなる。
- ・~~おいしそうと感じるような「弁当箱の形」にすることや、中学生にとって魅力的な献立の提供を行う。~~
- ・生徒がおいしそうと感じるような魅力的な献立を提供方法も含めて検討することが必要である。
- ・栄養バランスを考慮したものとなるよう、献立は栄養士が作成し、安全な食材（作物や食品）**の使用や地産地消にも配慮**したスクールランチとする。
- ・衛生管理が行き届いたスクールランチを製造し、生徒に提供することが必要である。
- ・メニューにはカロリー等の摂取量を表示するとともに、食物アレルギーへの対応として特定原材料等の表示が必要である。

3. 事務手続きの軽減

現在のスクールランチの注文や支払いは、教職員が事務手続きを行っているが、利用者が増えると、受付や代金の受け渡しなどの課題が出てくることから、現場に負担のかからない方法を考えることが望まれる。

【具体的改善・充実策】

- ・生徒が学校にお金を持ってくることの課題も考慮しつつ、注文や支払い方法については、生徒・保護者・教職員にできるだけ負担がかからない、互いが安心できる方法が必要である。
- ・事業者による、配送と配食や回収システムを確立する必要がある。
- ・WEB注文・決済システムは、利便性が高いことに加え、学校に現金を持ち込まずに注文・支払いの流れが完結することからも、今後、システムの導入をさらに検討していくことが必要である。

4. 食育の推進

「食」は成長期にある生徒にとって、楽しみの一つであると同時に、健康な心身を育むための大きな役割を果たしている。家庭や地域、関係機関・団体と連携して、生徒自身が食に関する興味や関心を高め、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけられるような取り組みをより一層推進する必要がある。

【具体的改善・充実策】

- ・家庭科の授業のさらなる充実を図り、出前授業や連携授業などを進める。
- ・弁当を持参している家庭への支援などの点から、全ての生徒や保護者に対して弁当レシピや朝食レシピ、成長期に必要な栄養情報等を提供する。
- ・企業や関係団体、健康推進委員等との連携により、親子のランチ教室や児童、生徒の弁当作り教室、朝ご飯教室等を開催する。
- ・食育の推進からも、小学校からの流れを大切にして箸等を持参することを促す。